

令和5年11月22日(木)奈良新聞より抜粋

佐保短大でオレンジリボン運動 親子同士の交流の場へ



児童虐待防止を呼びかけるオレンジリボンをつくる親子連れら＝2日、奈良市鹿野園町の奈良佐保短期大学

学生ら企画、運営担当

奈良

奈良市鹿野園町の奈良佐保短期大学(池内ますみ学長)で2日、学生によるオレンジリボン運動が実施された。

子どもの虐待防止を呼びかけるオレンジリボンを広める運動で、2004年に栃木県で起きた児童虐待死事件をきっかけに始まり、同短大でも毎年行っている。

奈良市子育て広場「ゆめの丘SAHO」(和田公子代表)と同短大の地域こども学科、子育て支援ゼミ(松本充史教員)の学生ら

が企画、運営を担当。未就園の子どもを持つ保護者に児童虐待について考え、親子同士の交流の場をもってもらおうと開いており、同短大では学生が子育て支援へ、同運動で学んだ知識を生かしている。

この日は、親子体操や、ポスター発表、親子オレンジリボンづくりなどを行った。和田代表は「学生によるオレンジリボン運動を通じて、児童虐待の実態を知り、子育てのしんどさや不安を共有できる機会となっている。今後も大学と協力して継続して進めていきたい」と話した。